

愛と夢 in 野間

野間中学校 校長だより 13号 H30.1.9



元旦の朝、エーゲ海を思い出すような美しい建物の並ぶチッタナポリへ初日の出を見に行きました。すでに東の空が赤く染まっています。あっ出た。太陽の力強い光を浴び、そのエネルギーが私の体に充填されていきます。「今年も、野間中学校にとって、皆様にとってよい年になりますように！」

2学期終業式 校長式辞

9月に転入生2人を迎え、255人でスタートしました。うれしいことに、2人ともサッカー部に入ってくれて、北村君も加わって13人になりました。おかげで11人で試合がやれることを本当にうれしく思います。

さて、2学期「愛と夢のある学校」にするために「相手より先に挨拶。」3点満点で自己評価をしてください。3点：約50人。2点：約180人。

1点：数人。次に、野間中学校最大のイベント野中祭。合唱コンクールも体育祭も素晴らしかった。「心一つになる感じを味わうことができた。」を3点満点で自己評価してください。3点：約150人。2点：約100人。1点：数人。

ここで、野中祭について書かれた3年生の卒業文集を紹介したいと思います。

夏目 昂 治君「舞台へ上がる。ただそれだけの行為なのに足が震えて呼吸が浅くなってしまっていることが自覚できてしまう。」

山本 竜 生君「弾き終えた後、やりきったという達成感がわいてきた。賞以上に大切な何かを得られた。言葉では表せないものだ。」

竹内 香凜さん「結果は銅賞。悔しい、悔しい結果だったが、この日まで、みんなと一生懸命練習してきた、クラスに一体感が生まれた。あたたかな雰囲気クラスに漂っていた。」

石田 千紗さん「この仲間と一緒に歌うことができ、本当によかった。最後の合唱コンクールは、私の最高の宝物となった。ありがとう、3A。」

都筑 ゆなさん「最後まで歌いきりました。歌った後、いろいろな感情がこみ上げてきて、涙が出ました。結果は銀賞でした。本当に悔しかったけど、私の中では3Aは金賞です。」

天木 菜々美さん「この経験から、全力で取り組めば、どのような形だとしても涙があふれ、忘れられない思い出になるのだと思った。」

吉田 光さん「3年目の合唱コンクールで、結果よりも大切な何かを得たと思う。」

ほんとうに大切なものは、目に見えない。ひょっとすると一生かけても見つからないかもしれない大切なものを見つけることができたみなさんは、すばらしい。まだ、見つけることができてない人は、一つのことを真剣に、そして全力で、取り組んでみてください。

最後に、みんなにお願いがあります。今、1年生は3クラス。あと4人来ないと来年は2クラス。今度入ってくる新1年生も35人学級で、ぎりぎり3クラス。ぜひ、「野間中学校はいいらしい。」何がいいって「挨拶ができる」「野中祭がすばらしい」って評判を流してください。



「3」だと思う人

学年代表スピーチ

2学期を振り返って

野間中学校へ入学して、9ヶ月が経ちました。すべてのことが初めてで、緊張していた1月期とは違い、いろいろな意味で「慣れ」が出てきた2学期でした。友達も増え、休み時間などは、とても楽しい雰囲気で生活することができました。その一方で、一人一人が自分の思いを主張し合うことができるようになってきました。

そんな中で迎えたのが、2学期最大の行事である野中祭でした。準備の段階で、一人一人の足並みがそろわず、それぞれが互いの考えをぶつけ合うだけで、なかなかまとまることはできませんでした。私自身も、自分の考えを主張してしまい、かえって混乱してしまいました。

しかし、前期の級長を中心に、先生方の力も借りながら話し合いを重ね、みんなが納得して野中祭を迎えることができたのは、本当によかったと思います。

クラスメートを見回すと、1年B組はとても楽しいメンバーが多いです。そんな中で、一人一人に得意なことや不得意なことがあることも分かってきました。



1年B組 中村伊吹さん

考え方も様々で、みんなの持ち味がかなり違うことも分かってきました。自分の持っていない感性に触れることで、自分自身も大きく変わってきたように感じます。きっと、みんながそういった風に変わってきているのではないかと思います。

このような経験を経て、私は後期の級長になりました。違う感性の仲間が集まって、一つのことに向かっていくことは難しいことだとは思いますが、野中祭の経験を生かして、みんなが納得して楽しむことができるような学級にしたいと思います。「誰一人として見捨てない」そんな級長に、私はなりたいと心から思います。

心に残ったこと

この2学期で心に残ったことが2つあります。

まずは何と言っても野中祭です。合唱コンクールの練習では、他のクラスが練習をしているのに、僕のクラスだけ練習していないときがありました。みんなで練習をしていくうちに、合唱コンクールで、「どうやったら優勝できるか」「そのためには今日自分たちはどこをどう練習すればいいのか」といった目的意識が芽生えてきました。そして、本番には3年生の先輩とも競い合えるぐらいの合唱ができあがったと思います。結果は、目標に届きませんでした。合唱コンクールを通してクラスの団結力が高まったと確信できました。体育祭では、いつも静かな2Aが、見えるほどの積極性を見せました。大なわとび一つとっても、みんなで並ぶ位置を決め、声かけをし、協力し合う姿がありました。また、縦割りチームで「優勝するぞ」という思いから、とても大きな声が出て、よい応援ができました。その結果、団結チームワーク賞を獲ることができました。



2年A組 都筑友哉君

二つめは、12月1日に行った上級学校訪問です。僕は、半田農業高校へ行きました。校内には、専門的な知識を学ぶために、ビニールハウスやバイオテクノロジーを使った栽培や微生物利用などの施設がありました。実際に高校を訪問したことにより、自分たちが当たり前だと思って過ごしている学校生活が、高校では全く通用しないものだと思えて感じさせられました。そして、中学校と高校との差を体感するよい機会になりました。午後は、日本福祉大学美浜キャンパスを訪問しました。大学は、連絡事項が掲示板に貼ってあり、ここでも中学校や高校との差を感じました。大学では、授業の様子を見ることができました。とても静かに授業が進められており、中学校の授業の風景とは全く違っていただけにもとても驚かされました。今回の上級学校訪問で、自分たちの現状を再認識することができ、高校進学への意識や関心を高めることができました。

この二つの経験から学んだことを、今後の学校生活や学校外の生活にも生かしていきたいです。3学期は、2学期までの反省を生かして、よりよい形で2年生を終えるようにしたいです。また、3年生への進級を常に意識し、毎日の生活を送りたいと思います。

みんなで何かを作る楽しさ

僕は、この2学期で、みんなで何かを作る楽しさを改めて学びました。

一つめは、3年B組としてです。ぼくたち3年B組は合唱コンクールで群青という歌を歌いました。この歌は、東日本大震災を体験した人たちの書いた詞ということで、その方々の思いを伝えるのが難しい歌でした。道徳の時間などで、みんなでこの歌の伝え方を考えました。パートごとに最後までよりよい歌になるように工夫をしました。そのおかげで、僕たちは自分たちの力を出し切り、思いのこもった合唱をすることができました。結果は、銅賞でしたが、中学校生活の中でも一番の思い出です。



3年B組 松本純平君

二つめは、生徒会執行部としてです。僕は今まで前期生徒会執行部として活動してきました。この2学期は、活動の集大成である野中祭の準備をしてきました。横断幕の作成、野中祭の司会進行、生徒会の出し物など、やることがたくさんありました。夏休みから、長い時間をかけて準備をしてきました。当日まで不安はいっぱいでした。「これで大丈夫かな」「ミスをしてしまったらどうしよう」と思うこともありました。しかし、当日は、みんなで盛り上がることのできる最高の野中祭になりました。みんなが、笑顔で楽しんでいる姿を見て、「たいへんだっただけ、がんばってよかった」と思いました。

みんなで一つのものを創り上げることは、簡単ではありません。でも、それができたときの達成感は、何事にも代えがたいものでした。卒業までの残り40日、最後まで全力で走り続け、「このクラスでよかった。この学年でよかった。野間中学校でよかった。」と思える卒業式を迎えたいです。